2021年（令和3年）
第20号
（12月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　「省心」～心の声に耳を澄まそう～　京都教会長　中村憲一郎

令和３年も年の瀬を迎えました。新型コロナウイルスの感染が広がる中、皆さまにとってこの一年はどのような一年でしたでしょうか？さまざまな困難に直面し、心が折れそうになった方も多くおられたと思います。それでも愛する誰かのために（両親のために、夫のために、子どもたちのために）、くじけそうになりながらも、心を立て直し、立て直し、今日の日を迎えている方も少なくないと思います。皆さまのご努力に対し、心からの拍手を送らせていただきたいと思います。

わが国のコロナウイルス感染者数は、約 173 万人に達し、18,000 人余の尊いいのちが犠牲となりました。確かに世界の国々に比して日本の感染は少なく、亡くなった方の数も少なくはありますが、これは単に多い少ないの問題ではなく、世界に起きている現実に目を向け、会長先生が年頭にお示しくださった「省心」～自らの心を省み、これからの生き方を考える～その時をいただいたのだと受け取ることが大事だと思います。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染のみならず、気候変動も、自然災害も、海洋汚染も、核兵器の問題（原発問題を含む）も、エネルギーの問題も、地球上に住む私たち人間の、仏教的に言うならば「共業（ぐうごう：人間社会の行為の集積）」の生み出した結果であると考えます。「人の手によって生み出したものは、人の手によって処理（処分）されなければならない」。結果を先送りにし、将来世代にその付けを払わせる、そんな世の中をつくってしまったら、将来世代に顔向けができません。何としても今を生きる私たちが、解決の道筋を付けて行きたいと念願しています。

本年、法燈継承から 30 年を迎えた会長先生は、機関誌「佼成」を通じて、３年余にわたって根本仏教から法華三部経をわかり易く、しかも実践に移しやすい内容でお説きくださいました。今月 12 月号でご解説もむすびとなりますが、そのお題は「心の声に耳を澄まそう」です。「心の中のとらわれを離れて、ものごとのほんとうのすがた（相）を観ることができると、清々しい生き方ができる」と呼びかけてくださっています。さらに「自分の内なる仏と向き合い、その声に耳を澄ませば、よりよく生きる心がととのっていくのです」と、どんなに日々に葛藤し、すぐにとらわれてしまいがちな私たちであっても、本然の私たちの仏性（仏心）を信じて、拝みだしてくださっているのです。その上で「開祖さまが、日々に礼拝された合掌印の仏さまが、今もわが家で、多くの人の幸せを祈念してくださっています」と結んでくださっています。これはとりもなおさず、開祖さまも、会長先生も、そして光祥さまも、いつも私たち一人ひとりの幸せを念じていてくださっているということだと受け止めています。なんと有り難い、もったいないことではないでしょうか。

また会長先生は、令和４年次の信行方針をご指導くださる中で、子どもたちの人格形成においても、家庭生活においても、親の役割の重大さを強調されました。「父は尊敬の的、母は慈愛の座」を目指す中で、「子どもは親の言ったようには育たない。やったように育つ」を心がけてまいりたいと思います。

私たちも日々、新型コロナウイルスで犠牲となられた方々のご冥福と一日も早い感染の終息を念じ、その為の回向行（菩薩行）として「即是道場」の精神に基づく布教伝道、菩薩行実践を誓願し、「今、この場で、私にできることを真心こめてさせていただきたい」と務めてまいりました。こうした「善業」の集積が神仏に通じる日を信じて、念じて、来年も「どこでも道場、祈り祈られ、笑顔と涙によりそおう」をモットーに「明るく、優しく、温かい」人間づくりをめざして、常精進菩薩として精進させていただきたいと存じます。

皆さまのご健勝とご多幸を、朝に晩に念じあげております。　合掌

令和３年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/